

アメリカ在住 KIMI ORR さん来日!
(23期)

Welcome 特集号



23期 常任幹事 畠地 豊

KIMIさんの突然来日に遭遇して、そしてWELCOME

1

それは突然のメールから始まりました。

「今、日本に来ています」5月31日のことでした。

私の記憶では6年ぶりの「里帰り」かと存じます。



それまで毎日のように別件でアメリカ滞在のKIMIさんとメール交信していたのです。

かつてKIMIさんがアメリカで教職時代に日本の中学校と「Video Conferens / 今でいうところのビデオ会議」を実行

された時の日本の学校は、何とこの畠地の出身地/三重県熊野市内に所在する中学校だったのです。（このことは北辰会HP/2021.9.30）に発表済みですが）。そして私は只今当時の日本側中学校の校長先生を探索することに集中しており、このことでKIMIさんとは毎日のようにメールで情報交換をしていたのです。それが突然『日本に来ている』ということでしたから、タイムスリップしたかの感覚に陥ったと言っても過言ではありません。

KIMIさんが日頃良く使われる言葉を借りれば、このニュースに私は「オッたまげました」。

コロナ禍で渡航制限が厳しい中で、良く出入国が出来たものだと思ったことと、それらしい予告も無かったので予知すら『蚊帳の外』的感覚だったからです。

**2**

そこで咄嗟に考えました。親しい人たちにお声をかけて彼女を囲んでひるめしても一緒にどうであろうかと！ 私も同期の幹事の一人として『これはほっとけない』と即、“閃き反応”しました。

決心したら急転直下、早くことを運ばなければそのうち彼女はアメリカにUターンしてしまいます。

日程選び：同期のみんなは年齢的にみんな定年退職組であるけれども、やはり土曜か日曜、それと彼女の帰国寸前の日程では何かと落ち着きがないであろうと考えて、6月11日（土）として彼女の都合を確認してこの日に決めました。次に私にあるアイデアが有りました。彼女の滞在期間中のこの11日（土）には、母校北野高校を会場として40余名の出席のもと「北辰会幹事会議」が開催される予定が決まっていました。

そこで食事会が終わったらその足で会議会場に赴き「KIMIさん」をご出席の皆さんに“紹介させて頂くセレモニー”を持たせてもらつたらいいかがであろうかと！私が勝手に旗振り出来るわけが有りません。おそるおそる「前田事務局長」にお伺いを立てましたところ「ええやないかい！」とご了解を頂きました。『KIMIさんが喜んでくれるといいなー』と私は天にも昇りたいほどの喜びを得ました。

3

とんとん拍子に話が進み、会場は北野高校に至近の「ホテルプラザオーサカ」としました。

幹事の西阪さん、三橋さんの他に彼女の親友美女(?) 2人、

堂本（旧姓/柿本）、水谷（同/楠田）さんが決まりました。

同期の川野卓志さんは最近自作の「絵」を会にご寄贈下さいました。

在学中のESSクラブを始め若い頃から英語の世界で怖いもの知らずとお聞きしていましたので、多忙の中でしたら駆けつけてもらいました。

それから26期の岡田美乃利（常任幹事）さんからは「KIMIさんが来日でもされたら、頼むこっちゃ！お会いしたいのでチャンスを！」と要請を請けていたので、忘れること無く連絡を差し上げました。

事務局の前田事務局長、兼田事務局次長には、北辰会の会議で十三に出てこられるので、少し時間を早めてもらってご出席をと願い、ご案内申し上げた次第でした。

4

「KIMIさん来日記念昼食懇親会」はこうしてスタートしたのでした。始まるやいなや、食事もそっちのけの様相で皆さんからKIMIさんへの会話や質問が弾みます。一人が長時間しゃべると他の人がしゃべれなくなるので、司会者としては調整に大わらわです。あっと言う間に予定の2時間は終了に近づいてしまったのでした。

5

その後みんなで北野高校まで徒歩で向かいます。

通学時代を思い出しながら、、、

40余名の会議出席者のご了解を頂き、会議に先立って

「KIMIさんの歓迎セレモニー」を設定して頂いたのでした。（詳細報告は省きます）

岡田会長、小河原副会長はじめご出席の多くの幹事の皆様、貴重な時間を頂戴し、尚且つKIMIさんを大歓迎して下さいまして誠にありがとうございました。

（2022年6月28日/記）

HOTEL PLAZA OSAKA





23期 KIMI ORR
(旧姓/金村紀美子)

11時半に十三駅西口で待ち合わせであった。11時25分頃に着いたら、案の定、堂本さん（旧姓/柿本）が既に来ていた。「早く来るって言っていたから私早く来たのに、心配して今電話したところよ」って、私を見て安心したように言った。高校時代、よくここで待ち合わせた。いつも水谷さん（旧姓/楠田）が待ち合わせの時間に遅れてくる。でも今日は私の後を追うように彼女がやって來た。

11時30分きっかり。

「急行に乗ってここ乗り越してしもてな」と、楠田さんが言ったら透かさず堂本さんが、「なにゆうてんのん、ここ急行とまるやないの」と反発していた。

現在彼女は浜寺に住んでいる。彼女の家は駅から歩いて20分かかる。ここへ来るのにかなり時間がかかったはず。彼女たちのフレンドシップが嬉しかった。きっかり十三駅を離れて駅前の信号を左に折れた。そして次の信号を右に曲がって北野高校へ行く方向へ歩いた。今この道を歩くのは卒業して以来のことである。今78歳になろうとしているから60年前のことになる。高層ビルやホテルが立ち並び、何もかもがあの頃と違っていた。これが発展というものだろうが、、、

日本に帰ってくるたびに故郷が故郷で無いような奇妙な気持ちになる。大阪駅の横に以前中央郵便局があったはずの所に「伊勢丹」がたち。阪急ホテルのあたりから大阪駅の西側のコンコースにつながっている。こんなことは思いもよらなかつたことである。



以前住んでいた我が家の周囲も、軒並み新しい家が立ち並び、近代的なビルが立ち並ぶ。私はそんなものに全く関心がない。そんな合間にぬうように古い家や、中二階の長屋など遠慮がちに残されているのを見ると、なぜかホッとする。しばしそこに立ち止まり妄想にふける。今どなたがこの家に住んでおられるのだろう。隣の家は玄関の前に草が生えっぱなしである。窓にはカーテンがかかっているが、多分誰も住んでおられないのかもしれない。そんなように思いながら、古い友人に出会ったような気分になって声をかけたくなる。「私もあなたと同じくらい古いのよ」

日本にいる間、朝の散歩は毎朝ルートを変え、古い友人を捜し歩いた、、、

堂本さんのリードでござれいなホテルに着いた。その三階ということでエレベーターに乗ったら畠地さん（だとすぐわかった。）がすぐ私たちのうしろから、「遅れた」といいながら乗ってこられた。昼食会の部屋に案内されたとき、ほとんどの方は来ておられた。高校時代、隣のクラスだとはいえ、あの頃、馴染みはなかったが、今、お会いして全く違和感がない。この食事会の後に北辰会の委員会の会合が控えているとは云え、私のために朝早く、府外や、遠方から出かけてこられた方々にありがとうございました。こちらに来る前はもうみんなお年もお年、年老いた感じだろうと想像していた。顔のしわは年輪だという。しかしお年が全くお顔に現れず、若々しい高校時代の素顔そのままでした。まさに私の人生の1ページに花を添えてくれた瞬間でありました。

この昼食会に参加された人たち、又、この日のために何かといろいろと企画なさってくださった畠地さん、心からお礼申し上げます。

(2022年6月20日/記)



「KIMI ORRさん来日記念昼食懇親会」

アメリカから帰国の友を迎えて



23期 堂本敦子（旧姓/柿本）

6月11日、幹事からのご案内で、Kimiさんの友として水谷（旧姓/楠田）さんと私までも参加させて頂きました。三人で懐かしい十三西口にて待ち合わせです。

ちょっとぴり変わった駅周辺に気を取られながらも改札に目を凝らしていると、Kimiさんの姿が… 目が合うなり、二人して何の挨拶もなく大胆なハグハグです。自分でもおかし恥ずかしげですが、彼女の雰囲気にはいつも吸い込まれる様な気にさせられる私です。

水谷さんも合流出来て、「あーだ、こーだ…」言いながら会場のホテルに向かいました。

気持ちの大きな彼女ですが、数年前に帰国された時より若く感じられ充実した日々を送られている様子に嬉しく思っています。

「Kimiさんはアメリカが似合っている 変わることなくそのままでいてね」と…

このような機会をご用意して頂いた23期幹事の皆さんにお礼申し上げます。
(2022年6月13日/記)

(筆者の住む街の風景)大阪城とビジネスパーク





Kimi Orrさんに会って

26期常任幹事/事務局次長 兼田吉治

6月1日に畠地常任幹事さんから「23期・アメリカ在住のKimi Orrさんが只今日本に来られています。6月16日まで滞在されるそうです。23期の数名が彼女と懇親の集いを持ちましょうと企画しました。ご一緒にいかがですか?」とのお誘いを受けました。すかさず「是非ご一緒させて下さい」と回答しました。

Kimiさんには2020年から北辰会HPに多くの記事を寄稿して頂いておりました。私はHP更新を担当している関係上、その記事をアップロードする過程で皆様より先に読ませて頂く役得があり、読んでみて、またKimiさんの他の記事も読んで、是非一度会ってみたいと思っておりました。会ってみてHP記事「初めて中学校で教えて」を読んだときに感じた人そのままでした。国外のさまざまな文化や価値観を知り、日本の常識にとらわれず、より広い価値観や考え方で物事を捉えるセンスをお持ちの方でした。そんなKimiさんも後刻開いた北辰会幹事会で挨拶をして頂いたときには、喜びと湧きあがる感情を御することができず感極まる一面を見せられる感情豊かな方でした。

懇親の集いのとき、「『初めて中学校で教えて』を今も書き続けています」と言われ、「是非HPに寄稿してください」と話しました。続編を大いに期待しています。

(2022年6月27日/記)



荒牧バラ公園／伊丹市

(筆者の住む街の風景)



いたみ花火大会/伊丹市猪名川河川敷

穏やかな存在感の Kimiさん



26期常任幹事 岡田美乃利

「北辰会報」を何回か読んでいるうちに畠地さん投稿の記事を通じて、アメリカ在住の同窓生・Kimiさんの存在が気になりました。

2時間や3時間では行けない遠い遠いアメリカへ渡り、そこで生活し、しかも学校の先生をしておられる。親戚も友人・知人もいない異国之地で堂々と生活しているKimiさんは、どのような豪傑な女性の方だろうと。

畠地さんには常日頃から「いつかKimiさんが来日されたら是非ともお会いする機会を頂きたい！」とお伝えしていました。

すると数日後、畠地さんから「Kimiさん、6月に来日されるよ。北辰会の拡大幹事会開催の日に食事会を考えている」と連絡をいただきました。私は余りの早さにビックリ。願いがKimiさんに通じたのかなあ！『スゴイ！』と思いました。

当日、会食会場の「ホテル・プラザ オーサカ」へ行くと、もう既に参加者の9名がテーブル席に着席。Kimiさんの隣に同期の女性が一人、その隣に私が着席しました。

和やかな雰囲気の中、食事に箸を進めながら、会話が弾みました。

Kimiさんは主役なのに自己アピール型の存在感を示すことなく、穏やかな会話の中の一人でした。私はKimiさんにアレも聞きたい、コレも聞きたいと事前に質問を考えて来ましたが、そんなに幾つも聞けないので「アメリカの学校の教室は1クラス何人位ですか？」と。「約20人位ですかね」とKimiさん。日本の教育条件の悪さに私は愕然！

Kimiさんは会話の中で出しゃばることなく、静かに会話に参加。

その穏やかな態度・仕草が存在感を示したのでは。

食事会が終わり北野高校での「北辰会・拡大幹事会」へと移りました。

Kimiさん、畠地さん、前田さん、本当に有難うございました。

(2022年6月20日/記)



新西宮ヨットハーバー/兵庫県

カルチャーショックの一日



23期 幹事 西阪一裕

私が同級生「金村紀美子/現：KIMI ORRさん」がアメリカに在住されていることを知ったのは「会報第27号」の誌面でした。引き続き同28号では、彼女の高校時代の燃える向学心と外国語の世界へと馳せておられたお気持ちを読み取ることが出来ました。

お名前には記憶があって同じクラスだったことは分かるも、どのような同級生であったのか直ぐには思い浮かびませんでした。

会報の写真を繰り返し見ては、“！！”背が高く、スラッとして、遅刻せず、いつも前列に着席していた人が『彼女ではなかったのか！』との思いに至りました。

五月下旬に畠地常任幹事から、「彼女が帰国しており、6月11日に彼女と共に食事会を開く」との連絡があつて参加することになりました。

席上には、旧知の水谷訓子（旧姓/楠田）、堂本敦子（同/柿本）両氏、アメリカでの生活経験をお持ちの三橋永一様もお見えになっており、話が弾む中で、話題もアメリカの状況に移り、ジョー・バイデン、ドナルド・ジョン・特朗普両氏における大統領中間選挙の行方と経済、銃規制、ハイウェイでの旅行、都市での安全、安価な宿泊の在り方等に及びました。

彼女は話題も豊富で、問い合わせにも丁寧なお返事があつて、また様々な事に広く関心を持たれていることは、ドイツ、韓国、さらに各地に足を運ばれて視野を広げられた経験から得ってきたものと思えた時、彼女のガッツの強さはどこにあったのか、「夜の北野・北辰の強さ」からかと、日々、大きな変化なく暮らして来た私には、少なからずカルチャーショックでもありました。

当日は北辰会の今後の在り方について方向を定める幹事会があつて、帰路、畠地君と誘う誘われるままに、彼女がかけてお世話になったことが有るという「富かつ」を訪ねました。畠地君は高校時代より利用されていたが、私は初めてがありました。

ご主人は私より少し若く、揚げ物も手際よくさばかれていました。

この方が、彼女が在学中に訪ねた際に「出会われた中学生の方」であったのかと、過ぎし年月の速さを思い、彼女が以前帰国した際に、このお店を訪ねてこられた時の情景、当時の気持ちいかがであったのかと心を過ぎりました。

このお店に隣接するアーケードの「十三本町商店街/十三フレンドリーストリート」へは、通学していた時も歩いたことが無く、まったく知らない町を歩いている感覚で、「ここはどこ?」との思いの中で、本日、卒業後初めて訪ねた母校もすっかり変わり、これまでの生活において「何か取り残したのでは!」と、反省と時の流れの中での変化にカルチャーショックを感じる一日で有りました。

いずれ、会報が彼女の手元に届くことでしょう。
誌面をお借りして、「未永く幸あれ」、「夜の北野よ、もっとがんばれ」と応援歌を送ります。

♪♪ 励め 我らが若き日を ♪♪

(2022年7月1日/記)



23期キミオアーさん歓迎祝賀会 会長挨拶



ご紹介頂きました、北辰会会長、岡田多聞と申します。今回の北辰会拡大幹事会にアメリカ合衆国在住の23期KIMIさん、旧姓金村紀美子さんをお迎えして歓迎セレモニーを開くことが出来、北辰会会長として喜びに堪えません。

お忙しい中、ようこそ北辰会へ

今回、キミさんは2020年8月、アメリカから事務局へメールが届き、事務局、23期畠地様常任幹事を通じ北辰会との交流が始まりました。北辰会へは毎回、贊助金とその時々の文章を頂き、会報、北辰会HPに紹介させて頂いています。北辰会が元気で活発の中で本当に喜んでいます。北辰会もワールドになったものと自賛しています。記念品として北辰会からはかさばらない物、新茶と29期竹本大鶴さん作成の卓上型書を送らせていただきます。北辰会と故郷日本を味わってください。

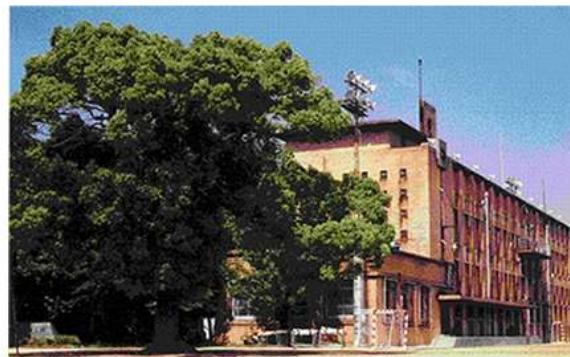
簡単でございますが私からの北辰会歓迎挨拶とさせて頂きます。

キミさんありがとうございます。

何時までもお元気でご活躍を祈念いたします。



旧校舎北門(通用門)から図書館への道



日本館東端の楠の大樹



この度は有難うございました。私のために昼食会が開かれ、お会いしてみたいと思っていた人達が面々と参席していただいて嬉しく思いました。私なりに前田さんことを事務局長という肩書から“固くて融通の利かない人では”と想像しておりましたが。私の想像は見事裏切られました。背が高くやさしいあのスマイルは自信とゆとりだと思いました。Committeeの前で座っている姿はまさに凜然としておられ、あれこそ前田さんだと認識いたしました。

幹事会の会合にはたくさんの方々が出席されていることに圧倒されました。北辰会がいずれは消滅されて行く事実に思いを馳せる人たちが、どのような思いをもってここに出席されているのだろうと思うと胸が熱くなる思いでした。また、いつも会報の一面などに爽快な笑顔で、ご挨拶をなさる岡田会長が交通事故とは云え、杖を使っておられるそのお姿にショックでした。承りますと半年余り入院、リハビリ後で、そのような状態でありながらも会長として役割を果たしておられるお姿はまさに「北辰魂」そのものでした。思いもよらない皆様から私へのプレゼントに深く感謝いたします。

岡田会長からの贈り物に恐縮いたしました。不自由なお体で、どこでこれを、、、と思いを馳せると胸がいっぱいでした。私が皆様の前で感謝のご挨拶を申し上げようとマイクロホンを持ち上げたとき、胸の奥から押し寄せるような物がこみ上げてきました。その瞬間感情をコントロールしようと思うや否や涙腺まで到達し、一言の言葉を発することなく、その場を去ってしまったことを深くお詫びいたします。そのような私に温かい拍手を送っていただき、もう感謝の念しかありませんでした。

50年いや60年の空白を、この場で一挙に取り戻した想いでした。
有難うございました。また、お会いできる日を願いながら、、、
北辰会の皆様どうかご自愛くださいませ！

(2022年6月20日/記)



6月15日23時27分、無事サウスキャロライナのチャールストン空港に着陸いたしました。日本との時差は13時間（こちらの方が遅れていますので）。同じ日の15日14時45分、東京からデトロイト（所用12時間）に向かいました。デトロイトでは乗り継ぎの飛行機まで5時間半の間があった。私のスーツケースも国際線から国内線に移さなければならなかった。その作業が終わり、最後のSecurity checkに入った途端、機内に持ち込みの小さなスーツケースが手元に無いことに気付いて慌てた！

Security checkの方にお願いしてそこを出て、今来たところを注意深く見て歩いた。どこにも私のスーツケースらしいものは見当たらなかった。最終的にはスーツケースを国内線に移したところにあるはず。でも確信はなかった。国内線のチェックインするドアを開けたとき、10メートルほど先にあの黒いスーツケースが、そのままスーツケースを運ぶ車の上にあるのが目についた。その横に係りの方が座っておられた。お礼を言ってまたもと来た道に急いだ。

Security checkのところで靴を脱ぎ、コンピュウターを取り出し、帽子、スカーフ、ジャケットも脱いで、無事チェックインを通過した。やれやれという思いで最後の行き先チャールストン行きのゲートに向かったが『手元のチケットにゲートのナンバーが無い』ということで、DepartureとArrivalの掲示板を探しゲートのナンバー「C28」を見つけた。

この目でゲートの場所を確かめ、まだ時間があるので飛行機に乗る前に夕食も済まして置かねばならない。ここに来る途中「マクドナルドの店」を見たのでそこまで戻った。背中のリュックサックにコンピュウターを背負い（日本では電圧のコンバータが無いということで全く使うことができなかった）、左手にバッグを持ち右手に小さなスーツケースを引いて歩いた。日本で購入した本や、頂いたお土産などで重量はかなりある。身動きするのに手間取る。「マクドナルドの店」はかなり混んでいた。そこでそそくさと夕食を済ませゲートに向かった。

チャールストン行きの飛行機のボーディングの時間が来た。1、2、3、4、のグループの順にボーディングする。私は4のグループで、1番最後に機内に入った。席も後ろの方で、重いスーツケースをスチュワーデスに手伝ってもらいながら棚に上げた。リュックサックを肩から降ろし座席の下に置こうとしたが何となく重みを感じない。中を見るとコンピューターがない！「しまった！」周りを見回したがスチュワーデスの姿が見えない。そして慌てて前のほうに急いだ。



ドアの前にいたスチュワーデスにsecurity checkのところでコンピューターを忘れたことを伝えた。彼女はすぐにsecurityにコンタクトをした。あちらの方から『黒いコンピューター？』と反応があった。

「はいそうです」
「コンピューターの後ろに何か書いてあるの？」
私はあまり定かではなかったが、
「そうは思いませんが」
すると外部から来たスチュワーデスが
「このコンピューターですか？」
と携帯に写っているコンピューターの写真を私に見せた。其れこそまさに私のコンピューターであった。
そのとき機内室から出てきたスチュワーデスがドアを閉める指示を与えた。
私の前に立っているスチュワーデスが「今security checkからこちらにコンピューターを持ってきているのを待っているのだ」と伝えた。
本当に危機一発ということでコンピューターが戻ってきた。ラッキー！

ちなみに日本に着いた時、関西空港で携帯を忘れた。それもバスに乗ってから気付いた。バスドライバーに告げたら、明くる日の朝、梅田の『関空バス乗り場』まで届けてくれた。今までこんなに忘れものした覚えはないが、それがすべて戻ってくるとはやはり“ラッキー”。

このラッキーに加担された方々に深くお礼を申し上げます。

『無事に着陸するのも楽じゃない』 経験でした。

(2022年6月20日/記)



22.06
アガパンサス（ユリ科）
高槻市内で